



浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.168

2017.7.20

発行：浜松ユネスコ協会
 発行人：会長 小島逞壯
 TEL (053) 463-0458
 FAX (053) 463-0458
 編集(広報委員会)阿部行俊

第1回親子公園探検隊 「初夏の自然 in 佐鳴湖公園」

6月10日(土)

タイサンボクのいい香り

シロツメクサの草原には、ヤマトシジミやベニシジミの可愛らしいチョウたちが舞っています。虫網を持った子供たちは、思いっきり走りながら、チョウの後を追いかけます。御両親は、そんな姿を温かい目で見守ります。

捕まえることができた子は、翅の持ち方をスタッフに教わり、優しく虫かごに入れます。小さな体であっても触角があり、小さな目があり、翅の裏にはきれいな模様があることを親子でじっくり観察します。



親子公園探検のすばらしさは、子供の発見を親が受け止め、親子で気付く目を養い、知る喜びに浸れることだと思います。そんなすてきな時間をもたらしてくれるのは佐鳴湖の豊かな自然です。(鳥井みのり)



2017年度 浜松ユネスコ協会 通常総会

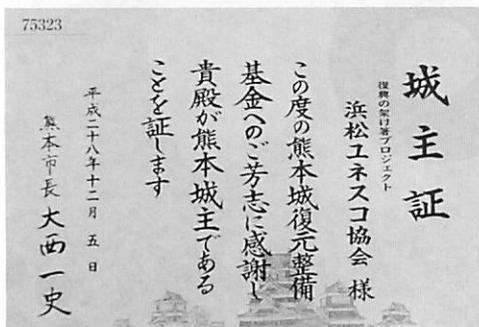
浜松ユネスコ協会の通常総会が、5月14日（日）にホテルコンコルド浜松で開催されました。総会では、会長挨拶に続き、岡本肇顧問を座長に議事が行われ、提案された議案は全て承認されました。引き続き、「お医者さんの上手なかかり方」と題して西脇医院長の西脇雅子氏の講話がありました。

会長挨拶 幸せや平和を脅かす諸問題

浜松ユネスコ協会 会長 小島逞壯



4月後半から、科学教室の準備のためにチョウの卵や幼虫を探しに、ほぼ毎日、阿多古川流域や熊や佐久間まで出掛けました。しかし、ほとんど採集できませんでした。そこで思い切って10年ぶりに水窪ダムまで出掛けました。ところが、僅かシロチョウが2、3匹とジャコウアゲハだけ、他の昆虫などの生き物もほとんど見ることはできませんでした。私は自然の異常を感じました。その上さらに驚いたことは、人の姿を見ることもなかったことです。



帰り道、横山の小さな村を歩いてみました。腰の曲がったお年寄りが急な段々畑を耕していました。家の前の竹藪には、誰も採らないタケノコが私の背丈以上に伸びていました。そこには、お年寄りだけの田舎が広がっていました。

過疎化の問題から、環境破壊、教育そして貧困や憲法の問題まで、私たちの幸せや平和を脅かす問題が起こっています。改善には、政治の力が必要だと強く感じました。

嬉しい話題を2つお知らせします。浜松ユネスコ協会が熊本城の城主になったこと。鎌倉ユネスコ協会がユネスコ科学教室の視察に来られたことでした。今後も伝統や歴史を教訓として、共に創る平和を目指して邁進したいと思います。

来賓メッセージ

衆議院議員 塩谷 立 氏

暦の上ではもう夏、万物もいっせいに活気づいているかのようです。本日は浜松ユネスコ協会「2017年度通常総会」の開催、誠におめでとうございます。

『こころ豊かな文化都市浜松』の伸暢は、浜松ユネスコ協会の日頃の活動の賜物と心より感謝申し上げます。

70余年の歴史を積み重ねられる中で、多くの子供たちに『科学する心』と『ふるさとや国の誇りになるものを大切に作る心』が育まれたことは、日本の明るい未来が約束されたものと嬉しく思います。引き続き、世界の平和と文化の交流を旗印にご活躍いただけるものと信じています。今後もユネスコ協会の趣意に基づいたご活躍をご期待申し上げ、お祝いのメッセージといたします。



貴重な自然を
次の世代に残しましょう。

山本和子

印刷のエキスパート
株式会社開明堂

TEL <053> 471-6231 (代) FAX 473-0778

< 講話 > 「お医者さんの上手なかかり方」

～ 患者さんは父であり、母であり、友人であり ～

西脇医院長 西脇雅子氏

医師として、30年間、多くの患者さんと接して、多くのことを感じてきました。そのようなことを踏まえ、上手な「お医者さんのかかり方」という演題で話を進めていきたいと思ひます。

1 健康寿命

健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間です。浜松市（2010年）の場合、男性の健康寿命72.9歳 平均寿命79.55歳、女性の健康寿命75.94歳 平均寿命86.83歳です。男性は約7年、女性は約11年間の不健康期間があるということになります。この期間を短くすることが、現在の医療の目標になっています。健康寿命を保つためにはためには、バランスの良い食事、適度な運動、ストレスをためないなどが大切です。

浜松市は、19政令指定都市＋東京都区部の中で、男女共に健康寿命が一番長い都市です。やらまいか精神で前向き、好奇心旺盛、定年後もボランティアなどで外へ出ていくなどが理由として推測されています。また、夜間救急など浜松方式とよばれる医療システムや大きな病院の整備もあります。

2 医師と患者さんとの信頼関係

私は、診察や治療は医師と患者さんの共同作戦だと思っています。医師と患者は対等な関係を持つことが大切です。わたしは、「患者さん」・「お医者さん」の関係が良いと思ひます。医師は、病気を診断して患者さんに説明し、患者さんが納得して共同で治療を進めていくのです。心配なことは、しっかりお医者さんから聞いてほしいと思ひます。緊張して話せないと思うときは、伝えたいことをメモしていくことも大切です。

反対に医師に対して攻撃的になったり横柄な態度をとったりすることは、医師を圧迫することになり、良い関係を築けなくなります。

3 病気の理解・病気との向き合い方

検査の結果、身体的な治療ではなく、心理面でのケアで良い状態にもどることもあります。しかし、長期に渡る治療が必要な病気や完治が難しい病気が見付かることがあります。どのような病気が見付かって、その後の治療や自身の生き方を考えていくとき、その病気を理解することが最も大切です。医師は、患者さんにそれを理解できるように説明します。患者さんは、病気を理解するために医師から説明を受けます。主治医は自分の範囲を越していると判断すれば、他の医師を患者に紹介することもあります。

現在、治る病気が増えてきました。治療方法も選択できるようになりました。自分の病気を理解して病気を引き受ける気持ちをもてば、治療方法の選択や今後の生活への疑問に答えが出ると思ひます。

現在の医療では勝てない病気もあります。テレビで難しい病気もドラマチックに治してしまう場面があります。何でも治せるように錯覚してしまいがちですが、病状によってはできないこともあります。新しい治療方法も研究されてきていますが、限界はあります。





自分の病気が治らないと分かったとき、どのように向き合うかということも大事なことです。私は患者さんに寄り添っていきたいと思っています。患者さんも自分の病気を理解し、私たち医師と一緒に向き合っていくことが大切です。

4 リビングウィル

1970年代から始まった運動の一つで「生前の意思」と訳されています。誰でも最期を迎えますが、どのように迎えたいか明確になっていないことが多いです。これを明確にしたものが「リビングウィル」です。脳卒中や痴呆を発症した場合、治療方法について自分の意志を伝えられません。延命処置をどの程度まで行うのかということもリビングウィルの一つです。自分自身の考えだけでなく、家族や友人の思いも大切する必要

があると思います。

リビングウィルは、何年かごとに書き換えます。年齢を重ねることで生活や考え方が変化するため内容を変更することは当然のことです。これは、法的な取り決めはありませんが、自分の最期を少しでも考えたとき、書き留め始めると良いと思います。

5 医療機関にかかるときの準備とかかり方

- (1) どのような症状が、いつからあるのかをまとめて伝える。
- (2) 既往症を正確に伝える。普段からメモしておく習慣をつける。
- (3) 服用している薬の情報を伝える。（お薬手帳を持参する。）
- (4) 治療している正確な病名を伝える。分からないときは、医師から聞いておく。
- (5) 診察しやすい服装で受診する。
- (6) 同時に複数の医療機関で診察や診療を受けない。主治医に納得するまで説明を求める。その後、セカンドオピニオンとして他の医師の診断を仰ぐ。

6 災害時の対策として

- (1) 常用薬は1週間程度以上を保持しておく。
- (2) 常用している薬の作用を理解しておく。
- (3) インシリンの場合、正確な名前を言えるようにしておく。

医師として、たくさんの患者さんと出会い、教えてもらいことが多くありました。私にとって、患者さんは父であり、母であり、友人であり、子供であったりします。医療は日々進歩しています。今後も日々勉強だと思っています。（要旨抜粋）

議 事

岡本座長のスムーズな進行で予定した議案は無事承認されました。本年度総会の特筆すべき事項は、規約に条文を追加して、事務局を設置し、事務局長を選任したことと、欠員に伴い副会長1名を選任したことでした。

新 事務局長 三輪 宣弘
新 副会長 加藤 泰弘

座長 浜松ユネスコ協会顧問 岡本 肇 氏



2017年度 ユネスコ科学教室スタート

31年目になる科学教室の開講式が、4月29日、浜松科学館で開かれました。本年度は44小学校から116名が参加しています。



科学教室スタッフの紹介

来賓挨拶

～ 最後まで楽しもう ～

浜松市創造都市・文化振興課

生涯学習担当課長 藤田健次 氏



この伝統あるユネスコ科学教室を通して、皆さんに2つのことを期待しています。

一つは、命や自然について学ぶことを通して、皆さんの「科学する心」の成長を願っています。身の回りのことで不思議に思ったことに会ったら、「なぜだろう。」とじっくり考えてください。

二つ目は、「世界の平和を願う心」です。日本のことだけでなく、世界という広い視野をもって生活したり、行動したりできる人に成長してほしいと願っています。

教室は全部で9回あります。最後まで楽しんで参加してください。

子供たちは、大変忙しい生活の中でバーチャリズム疑似体験が多くなっています。本教室は、実体験を通して学ぶ活動が主体です。貴重な教室であると考えています。(要旨抜粋)

～ 科学の果たす役割を考えよう ～

浜松ユネスコ協会 副会長 安藤隆敏

浜松ユネスコ協会は、1948年に全国で5番目の民間ユネスコ組織として設立されました。その後、浜松市の支援を受けながら活動してきました。特に、力を入れているのは、子供たちが真正面に科学に取り組む科学教室です。世界的にも例のない活動です。

今年の3月に、科学者の代表機関である日本学術会議は、「軍事的安全保障に関する声明」を発表しました。具体的には、戦争を目的とする科学の研究は行わないという内容です。ところが、本年度、防衛省は大学や企業に安全保障の研究について、110億円を用意しています。昨年度は6億円でした。大学を運営するための交付金は、毎年、減少しています。そのため、科学者の中には、防衛省が準備したお金を研究費として使おうとする人も出てくると考えられます。そこで、日本学術会議は、もう一度原点に



立ち戻り、戦争のための科学の研究はしないようにするという声明を出したのです。現在、世界で起こっている戦争は、最先端の科学が利用されています。科学の果たす役割を考えていかななくてはなりません。

昨年度の閉講式でノーベル生理学・医学賞を受賞した東京工業大学の大隅良典先生のお話をしました。その日の午後、私は、偶然にも、この科学館で大隅先生と出会いました。大隅先生は、「科学を目先の役に立つという視点で捉えるのではなく、一つの文化として認める社会になってほしい。子供たちには、あれ、なぜ、どうしてという気付きを普段の生活の中で大切にしたい。」と話しています。全く同感です。

科学教室では、最後に修了証書をお渡しします。そこには、科学教室で身に付けて欲しい4つのことが書かれています。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 素直な心の持ち主になること | 2 疑問を追究する人になること |
| 3 地球の自然を守る人になること | 4 世界の人々の平和を願う人になること |

以上のことを心に留めて、今日からユネスコ科学教室をスタートさせましょう。

この活動で、みなさんが大きく成長することを期待します。

(要旨抜粋)

5月21日(日) 浜松科学館

第2回科学教室「チョウと植物 チョウの不思議」

～ 本物に触れる喜びと感動を大切に ～

夏場は毎日のように見かけるチョウですが、その生態は個々に異なり、本当に奥の深い生き物だと考えさせられるばかりです。

「チョウの不思議講座」では、いろいろな種類のチョウの生きる知恵を学びました。天敵から見付からないように擬態をするもの、体内に毒をもつもの、他の虫が好まない植物を食べるもの等、厳しい環境を生き抜くための術に子供たちは驚いている様子でした。

後半の、「卵・幼虫・蛹・成虫の観察」では、チョウの生きる姿を子供自らの目でじっくりと見たり、手で触ったりしながら、本物にたっぷりと触れました。図鑑を読んで知っていることでも、本物を目の前にすると、子供たちからは、「これ本物!?!」「すごくきれい!」と感嘆の声が聞かれました。

特に、チョウを指で挟んで蜜を吸わせる実験では、多くの子が、「初めてチョウに触った。」と口にしていました。チョウが、今までよりもさらに身近に感じられる、とても有意義な半日となりました。

(藤崎 徹)



6月17日(土) 浜松文化芸術大学

第3回科学教室「微生物とホタル」

～ 不思議な動き 美しい姿 微生物の世界に感動 ～



まず、スタッフがセットした顕微鏡での見え方を確認してから、スタートしました。自分の力で顕微鏡に微生物を導入できれば感動も大きいものです。

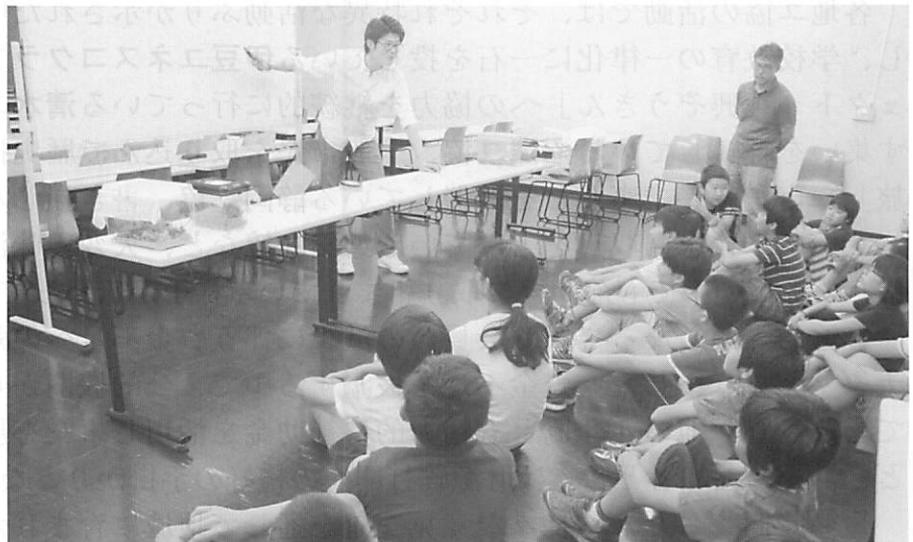
最初は、顕微鏡を上手に操作することができず、なかなか微生物を見つけることができません。しかし、しばらくすると、「見つけた!」と発見を喜ぶ声が聞こえ始めてきました。顕微鏡をのぞくと、そこは微生物の世界。子供たちはその美しさに感動してい

ました。改めて本物に出会うと感動が生まれると感じさせられました。

また、「微生物を持って帰って研究したい。」「どうやって増えていくのかが不思議。」など、普段、気にすることのない微生物の世界に、子供たちが興味をもってくれたことを嬉しく思いました。

別室ではホタルの観察も行いました。短い命の中で次の世代へと命を繋げるため発光するホタル。そんなホタルの輝きは感傷的な気分を誘います。しかし、幼虫時代は予想以上に獰猛な面を見せます。ホタルの美しさと生態に子供たちは何を感じたのでしょうか。

今回の水と生命の講座を通し、生き物のつながりについて考えてもらえたらと思います。(小林和美)



にれとうほう
楡陶房

浜松市南区瓜内町860-1
TEL 080-3069-0240

内科・消化器科

西脇病院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

2017年度 静岡県ユネスコ連絡協議会総会

静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 6月16日（金）



浜松ユネスコ協会からは、小島、大石、安藤、加藤(泰)と私の5名が出席しました。連絡協議会総会は県下6つのユネスコ協会・ユネスコクラブが一堂に会し、情報交換などを通じてユネスコ運動の進め方を確認し共有する場となっています。

総会の審議では2016年度の事業、会計報告、2017年度の事業計画、予算、などの議事案件が諮られ、全て提案通り可決承認されました。なお、役員改選の件では、清水ユ協の薩川論会長が新会長に選任され、この先2年間の主管運営を同協会に託すことになりました。

総会の後半では、沼津、清水、静岡、磐田、浜松、伊豆の各協会・クラブからの現況報告を受け、活動の中で抱えている課題について活発な意見が交わされました。

各地ユ協の活動では、それぞれ特異な活動ぶりが示された中で「大地での教育」を実践し、学校教育の一律化に一石を投じている伊豆ユネスコクラブ、盛岡市被災者支援プロジェクト「復興ぞうきん」への協力を継続的に行っている清水ユ協、平和を祈念し鐘を鳴らす集いを継続している沼津ユ協、一般市民を取り込んで歴史探訪講座「ふるさと再発見の旅」や市民教養講座などを開催している静岡ユ協、書き損じハガキ回収で毎年著しい成果（6～7千枚を回収）を上げている磐田ユ協など、大変興味深いものが紹介されました。厳しい環境の中でも前向きに取り組まれている様子が伝わってきます。

普遍的課題となっている会員数の減少に伴う資金不足への対策についても活発な議論のテーマとなりました。資金不足を披瀝する中で、公的機関からの補助金の受給状況について言及され、他の4ユ協とも精力的に補助金を活用し事業を展開していることが分かるなど、浜松の参加者としては財源難打開への格好の手掛かりとなりました。

短い時間でしたが、様々な意見交流を通して地域に育まれた方々と直に情報を共有できたことは大変意義深いことと思えました。
(事務局長 三輪宜弘)

あなたも一緒に 会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数（17.7.4現在）

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	45
普通	学生	合計	
43	0	124	



※再生紙を使用しています。